

第14号・1997年4月

E-Mail: misumi@mos.com.np

8ヶ月。美澄は日本に帰ります ティハール明けにまた会いましょう

美澄が出産を日本で言う話は既報の通りですが、タイ航空は妊娠8ヶ月目に入った妊婦の搭乗を許してくれないため、4月19日より一時帰国することとなりました。予定日は7月5日です。美澄が赤ん坊を連れて再びネパールに来るのは11月のティハール休暇明けです。日本での滞在は約7ヶ月、三鷹の実家にて過ごします。お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。なお、妻不在の間のサンチャイ通信は、不肖私が継続して発行させていただきます。(浩司)

ということで、当分の間私はお休みさせていただきます。またネパールに戻ってきてからサンチャイ通信を書かせていただきます。今度は育児日記風になるかも知れませんが、また違った視点でネパールを見ることが出来るのではないかと思います。(美澄)

天馬、亜細亜を駆ける 香港チャイナコーストマラソン

香港が中国に返還される今年7月までに一度香港に行ってみようという希望が以前からあり、美澄を出産準備で日本に帰す4月より前に2人で行く最後の旅行を楽しもうと、3月上旬の3連休に任国外旅行を計画した。また、この時期を選んだ背景には、3月9日開催予定の香港チャイナコーストマラソンに出場したいという下心があった。

出場を考えた時に最初に困ったのは、参加申込方法がわからなかったことだ。しかし、昨年7月から始めているインターネットで検索をかけているうちに、なんとホームページを探し出すことに成功！ホームページから印刷した申込書に必要事項を記入し、参加料分の送金小切手を同封して大会本部に郵送すればよい。しかし、問題はこの送金小切手だった。

ネパールの銀行では香港ドル建送金小切手の取扱ゼロ。困った私は、電子メールで大会本部に参加料の支払方法を問い合わせ、米ドル現金30ドル分を同封するようにとの指示を受け取った。幸い米ドル現金は持っていたので、これをエアメール封筒に同封して郵送した。これで参加手続きは終了。次はフライトとホテルの手配。

日本なら大会参加手続きを含めた海外マラソンパックツアーが充実しているが、個人でエントリーする訳だから、市内の航空会社代理店を通じて自分で依頼する。ホテルは大会会場からアクセスが良いホテルを地図でリストアップし、航空会社が提携していてカトマンズから予約ができるホリディンに決めた。

出発1週間前にゼッケンが郵送され、仕事も片付けた私達は、3月5日、チャイナの旅路に出発したのであった。

市内観光と買い物を一通り楽しんでへとへとに疲れた体を足のツボマッサージで癒し、当日朝を迎えた。会場は香港北東部の西貢の貯水池で、丁度部分日食の時間帯とも重なり、人工の景観と天体ショーを楽しむことはできた。高地トレーニングの効果も確かにあったが、このところ宮様の受入準備で2週間ほど走っておらず、序盤から調子に乗り過ぎたせいで中盤からかなりスローダウンしてしまい、ほろ苦い「ペガサス」アジアデビューとなった。まずは走りきったことが何よりも嬉しい。観光や買い物に便乗したマラソン大会参加ではタイムは狙わないことだと悟った次第である。(浩司)

何故かついていなかった香港旅行

3月5日から5泊6日で香港に行ってきました。浩司さんはマラソン、私は返還前に1度行ってみたいだったのでようやく念願かなって嬉しい筈だったのに……。1時間遅れでカトマンズを立ち、バンコクでの乗継時間が45分しかないため少々焦っていました。しかし同じタイ航空の乗継なので、バンコク到着が遅れても香港行きの飛行機には乗れると思っていたのにバンコクに到着してみると、飛行機は既に出た後で、思いがけずバンコクで1泊する羽目になりました。

翌日6時半に空港にチェックインし、いざ香港へ。香港で入国審査を通過しようとした時、急にトイレに行きたくなりトイレに駆け込むと……。お腹が下っていたのです。すぐに治るだろうと思いつつホテルに向かい、とりあえずこの日はショッピングなどをし、夕飯も楽しみにしていた北京ダックを食べて過ごしたのですが、私のお腹の調子はどんどん悪くなり、翌日の体調は絶不調！下痢がひどくとても観光どころではなく、午前中に予定していた観光をキャンセルしてホテルで1日中寝ていました。この間トイレトペーパーを1巻き使いきりとても辛かったです。

しかし翌日は少し持ち直し、日系のデパート巡りをして日本食材や日本の書籍を買い目的の1つは達成する事が出来ました。そして、浩司さんがチャイナコーストマラソンに参加した日曜日、浩司さんを見送り1人で朝食を食べましたが、お腹の調子が回復してきているせいか、今まで量も食べれず美味しく感じなかったホテルの朝食バイキングが美味しく感じられるようになりました。お昼は念願の飲茶に行き、とても美味しく味わうことが出来ました。その後市内も少し見ることが出来満足いく1日でした。しかし翌日は朝6時にホテルをチェックアウトし、空港へ向かわねばなりません。結局香港で美味しい中華料理を食べるといった目的を十分に果たせぬままカトマンズに戻ってきてしまいました。

香港は日経新聞によると世界11都市の中で最もブランド物の安い都市だそうです。カトマンズで生活することを思うとブランド物ではなく生活用品にばかり目が行き、その物価の高さ(日本とあまり変わらない)に驚きました。

戻ってくると、ドライバーからタイヤが2度もパンクし新しいタイヤを買わなければならないと言われ(なんとという出費!)、嫌なことが続くなつくづく思いました。(美澄)

私の仕事紹介(その13) バジュラチャリア女史の日本訪問

3月も忙しかったが、年度末を迎えて駆け込みの仕事も多く、それなりに達成感も大きかった。その中でも最も嬉しかった出来事は、ルクミニ・バジュラチャリアさんの日本訪問がようやく実現したことだ。バジュラチャリアさんの家は私の近所で、ヒマラヤ保全協会のスタッフとして働いている息子のアニルさん共々親交が深かった。

バジュラチャリアさんとは、去年の7月、私がJICAの教育評価ミッションをトリブバン大学教育革新研究所に連れて行った時に知り合った。トリブバン大学の元教育学部長で、現在は同研究所の研究員の他、高等中等教育評議会「10+2(テンプラスツー)」のメンバーでもある。ミッションが日本に帰って暫くして、バジュラチャリアさんは「10+2」のカニア副議長の案件要請書を持ってJICA事務所を訪れた。未だ始まって間もない「10+2」制度を確立するため、同評議会スタッフが日本の高等学校教育を視察する機会を作ってほしいとの要請だった。

私はその時、JICAの個別一般研修枠なら対応できるだろうが、既に今年度は半ばに入っており、今すぐ研修に送ることはできない、早くても来年度と回答した。ところが、12月頃になって今年度の個別一般枠をどうするかという議論が事務所内で起こり、それなら「10+2」から研修に送ろうということになった。

早速私はカニア副議長に連絡し、候補者のノミネートを依頼した。カニア副議長が当初から候補に挙げていた2名のうちの1人がバジュラチャリアさん本人だった。一方で大変だったのは研修受入先の確保だ。ネパールにいる私達が日本の研修実施機関に直接依頼して内諾を取らないと東京サイドは動いてくれないと聞き、方々のつてを頼ってようやく玉川大学学術研究所と大学入試センターに依頼することになった。この間のコミュニケーションでは、電子メールが大変に役に立った。ただ、今度は一方で「10+2」からの正式な要請書がなかなか出て来なかった。私は再度カニア副議長をせつつき、なんとかこれを提出させ、東京サイドがデッドラインとしていた3月5日によりやく全てクリアしたのだった。東京からの受入回答は、意外と早く来た。

3月29日、バジュラチャリアさんは、「10+2」の他のスタッフ1名と共に日本での2週間の研修に出発した。(浩司)

それ本当にあんたが使うの? 恐るべきネパール人パワー

3月は帰られる日本人の方が多く、そのうちの何名かが合同で荷物整理をかねたバザ-を行いました。お子さんのいる家庭だったのでバザ-に出していた物は、子供が使う物、電化製品、食器、洋服、本、薬、食料品等でした。売る側にすれば不要品を処分すると同時に、日頃お世話になっていた日本人の方に安い値段で買って、使ってもらいたいと言う気持ちがあり、また、買う側にすれば自分の家に必要な物を安く入手出来るチャンスなのでとても嬉しいものです。

当日は午後2時から始まり、入れ替わり立ち替わり20人以上の人がやってきて、3時ぐらいには半分以上の人は一通り欲しい物を買って帰りました。人が少なくなってきた頃、会場となった方の大家さんと思われるチベット系のネパール人が4、5人やってきて、品物を物色し始めました。しかしおおかたの物は売れてしまっていたのであまり希望するものはなかったようで、比較的静かに品物を見ていました。

しかし、3時半頃そろそろ私も帰ろうかなと思っていると、帰国間近の方が1人段ボール10箱ぐらいの品物を持っていらっしゃいました。見ると、衣料品、食料品、子供のおもちゃ、トレッキングに使えるような道具など色々ありました。その時に残っていたのは2、3人の日本人と後から来たネパール人でした。驚いたのはネパール人の物色の仕方。ひっくり返さんばかりに段ボールから色々と物を引き出し、彼等が物色している間はとても近づけない雰囲気であれもこれもと手にし、手元にキープしていくのでした。洋服、子供のおもちゃなどは買っていくのも理解できますが、わからないのは日本食の材料も買って行ったことです。たとえば、フリーズドライのお赤飯、漬け物など絶対彼等が食べなさそうな物、作り方が日本語表示で理解できなさなものまで買うのです。最終的に大きなリュック3つ(これもバザ-で売られていた物)一杯になるほどの品物を買いたくシーで帰って行きました。おまけにタクシーは門にぶつけるし、彼等が帰った後は台風が去ったようでした。あまりのすごさに残っていた日本人は、「すごい!あれはどこかで売るに違いない。」と言い、「バザ-の時にネパール人は呼ばない方がいいね。」という結論になりました。バザ-を開く人にとっては、お世話になった人に少しでも還元したいという気持ちがあるのに、安く買って高く転売されたらたまりません。ネパール人の印象がまた悪くなってしまいました。(美澄)

編集後記

★私達が香港旅行に行っている間に国民会議派(NC)のデウバ連立政権が倒れ、続いて国民党(RPP)と統一共産党(UML)連立のチャンド政権が誕生しました。RPPはデウバ政権でも連立与党を組んでいたのに、少数政党なのに最大政党UMLとの連立を画策するとは、どこかの国の政党みたいですね。さらに、この連立政権が発足した後、下野したNCからUMLに鞍替えした政治家がいるというから、まるでどこかの国の政党の議員みたいですね。まるで有権者を馬鹿にしていますよね。閣僚に選ばれなかったという理由だけで脱党する議員もいたのです。そして、官僚機構の脆弱なこの国では、政府交替で各省庁の高官も交替するでしょう。首のすげ替えはこれから本格化すると言われてます。私達が折角培ってきた人間関係をまたゼロから再構築するのは大変です。民主化は道半ばという感じですが、今の日本を見ていると、どっちもどっちという気がします。(浩司)

★いよいよ出産のために帰国することになりました。帰る前に色々整理をしなければと思い急に忙しくなっています。浩司さんとは出産まで暫く会えませんが、ちょうど一時帰国の時期に重なるため誕生から2ヶ月間は一緒に過ごすことが出来そうです。それ以外の計5ヶ月間、単身赴任にさせていただきますが、これも元気な子供を産むため、お父さん我慢してね。またこちらに親子ともども戻って来るには元気な子供が生まれてくるのが第1条件です。果たしてどんな子供が生まれてくるのでしょうか?帰ってきたらネパールの話題より子育ての話題が多くなり「親ばか通信」になるような気がします。今後もお愛読のほどお願いいたします。(美澄)